Multilingual Electronic Newsletter

多言語メールマガジン

かごしま南の風便り

Kagoshima Southern Wind Tidings

VOL.198

▽トピックス

1　国際交流員のコラム（鹿児島県国際交流員　金（キム）　周希（ジュヒ））

●鹿児島の離島『徳之島』をご存じですか？

2　かごしまの国際交流

●令和7年度県費留学生が来鹿しました

3　知事の動き

●HIS JAPAN 山野邉プレジデントが県庁を訪問されました（5月8日）
●鹿児島県・江蘇省交流協力会議が開催されました（5月 19 日）

国際交流員のコラム

●鹿児島の離島『徳之島』をご存じですか？●

―鹿児島県国際交流員　金　周希（韓国出身）―

南北に600kmに渡る鹿児島県には魅力的な離島がたくさんあります。その中で、2021年に奄美大島とともにユネスコ世界自然遺産に登録された徳之島を取材する機会をもらえたので、行ってきました。

徳之島に行く前に、周りの同僚や知人に徳之島に行ったことがあるか聞いたのですが、行ったことがある人はほとんどいませんでした。だから私にはとても未知の島でした。行く前には鹿児島県観光連盟のホームページや徳之島の観光ホームページを参考にして取材する所を決めました。

【参考】

鹿児島県観光連盟 - kagoshima-kankou.com

徳之島観光連盟 - tokunoshima-kanko.com

徳之島の一番有名なものを挙げるとしたら、断然、闘牛です。日本で今でも闘牛をしているところは珍しく、実際に体験する機会は多くはありませんが、実は韓国でも闘牛をしているところがあるので、私にとってそこまで見慣れない文化ではありません。この縁で実際に韓国の慶尚北道清道郡と徳之島の3町（徳之島町、伊仙町、天城町）は友好都市を結んでいます。私が徳之島に取材に訪れた日の前の週末に、闘牛が見られると聞いて、私は迷わず週末の個人時間を利用して徳之島に行きました。

伊仙町にあるなくさみ館に着くと、入り口周辺にすでに当日の闘牛に出る牛たちが準備していました。なくさみ館はドーム形式で屋根があり、雨の日や日差しの強い日でも無理なく試合ができるようになっていました。また、印象深かったのは全国出生率1位の徳之島らしく、会場には子供たちが本当に多かったということです。闘牛は一見、子供たちには向いていないように感じるかもしれませんが、徳之島の次世代である子供たちが徳之島の伝統文化を直接見て体験できることは、徳之島の伝統保存にも大きな役割を果たすことができると思いました。

当日もらった闘牛のチラシ

開始とともに、なくさみ館は大きく盛り上がり、牛が入場し始めました。一匹が先に入場して待っていると、もう一匹の牛が入ってすぐに戦いが始まります。徳之島の闘牛の特徴は鼻綱をせずに、「勢子」と呼ばれる牛の飼い主がそばで牛が興奮するように誘導するということです。牛たちは角と固い頭でお互いに突進し、迫力あふれる闘牛が始まりました。

実際に角に当たって血が出て白かった牛の頭が赤くなったり、時にはにらみ合いだけで本格的な戦いが始まる前に逃げる牛もいます。この場合、逃げた牛はすぐに敗北になります。

この日、計 10 チーム、20 頭の牛が闘牛に参加しました。中でも一番長い試合は 40 分を超えましたが、実際に長い時間が経ったのか感じないほど迫力がある闘牛を観戦しました。闘牛に勝利すると、勝利した牛の飼い主と関係者たちが競技場に入ってきて「ワイド！ワイド！！」と叫びながら勝利を祝います。

すごい勢いで戦っている牛たち

闘牛を直接見たのは生まれて初めてでしたが、思ったより巨大な牛たちが迫力溢れる対決をする姿を見て、私も知らない私の中にある熱い血が沸き上がるような感じがしました。機会があれば韓国の闘牛も直接見て比べてみたいと思いました。

翌日、本格的に徳之島の取材を始めました。今回の取材は、徳之島をより多くの人々、特にメルマガを読んでいただいている外国の方々に紹介したいという目標を持ってスタートしました。ということで、徳之島の代表的な観光地を中心に取材を始めました。いろいろな観光地がありましたので、テーマを分けてご紹介したいと思います。

＜自然景観＞

●ムシロ瀬

奄美群島ではなかなか見られない花崗岩の地形と海の素晴らしい風景が調和する場所です。まるでムシロを敷いたような風景ということで付けられた名です。永遠に続くような水平線と花崗岩がとても美しい場所です。

ムシロ瀬の風景

●金見ソテツトンネル

徳之島では、昔から家と家、畑と畑の間を区分するためにソテツを植え、塀のように使用していたそうですが、そのソテツが今では生い茂っていて、まるでトンネルのように見えるところです。南国の風景を存分に感じられる観光地です。

＜名所＞

●泉重千代翁の像

出生率 1 位に輝く徳之島は、もう一つのタイトルがあります。それは「長寿の島」徳之島です。120 歳まで長生きした男性（泉重千代翁）が徳之島出身なのです。皆さんも一度訪れて、長寿の気をもらってみるのはいかがでしょうか？

泉重千代翁の像

＜歴史・文化＞

●徳之島町郷土資料館

ここは、徳之島の歴史がわかる貴重な資料館です。その地域の歴史を勉強するのが好きな私はとても興味深く観覧しました。特に、徳之島の古代から波乱の歴史を持つ近現代まで、徳之島の歴史を一目で見ることができる展示演出が印象深かったです。

●なくさみ館闘牛資料館

闘牛を見ることができるなくさみ館の建物内に闘牛について知ることができる資料館があります。映像資料や展示物で闘牛の歴史を勉強することができます。資料館は室内なので雨の日にも見学可能です！

●にしかわ酒造

鹿児島の最も有名なお酒といえば、芋焼酎が挙げられますが、サトウキビが多く栽培される鹿児島の離島では、特色のある黒糖焼酎が製造されています。

独特の香りがする芋焼酎とは違い、黒糖の甘い香りがする黒糖焼酎は、日本の焼酎を飲んだことがない初心者でも抵抗なく飲みやすい焼酎でした。

このにしかわ酒造では、黒糖焼酎が作られる過程を見学し、数種類の黒糖焼酎を試飲することもできます。

徳之島でつくる様々な焼酎たち

ただし飲酒運転は禁物ですので、運転をされる方は飲みたくても我慢してくださいね！　（笑）

＜徳之島の自然＞

●世界文化遺産センター

2024 年に開館した世界文化遺産センターは、徳之島固有の自然生態系について見ることができる場所です。まるで森の中に入っているような気分になる演出により、徳之島の自然をより身近で体験したような印象をもらいました。すぐ隣には道の駅徳之島があるので、お土産を買うにもいいところです。

徳之島世界遺産センターの前で

生きているハブ！

●ハブ館、アマミノクロウサギ観察小屋

徳之島がユネスコ世界自然遺産になった理由の一つである独特な生態系の証拠でもあるハブとアマミノクロウサギが見られるところです。ハブ館は天城町役場のすぐ隣に位置して、すごく近くで観察できます。ケージはちゃんと閉まっているので安心してください！

また、アマミノクロウサギ観察小屋では実物は見られないのですが、観察カメラがあり、カメラ近くで遊んでいるアマミノクロウサギの映像などを見ることができます。アマミノクロウサギにすごく熱い思いを持っている職員さんから熱い説明も聞けるのでおすすめです！

アマミノクロウサギのふん。
臭くなくて不思議でした！

他にも南国の島ならではの、美しい海で様々なアクティビティを楽しむこともできます。私はまだ寒い時期に行ったので残念ながら海には入れませんでしたが、偶然クジラを見ることができました。ザトウクジラが冬場に出産して育児をするために徳之島近くの海にやってくるのですが、ホエールツアーに参加して船に乗ってクジラを間近で見ることもできますし、陸でも運が良ければクジラを見ることができます！

四季を通じて様々な楽しみがある徳之島にぜひ訪問してみてください！

かごしまの国際交流

●令和７年度県費留学生が来鹿しました●

本県では、移住者の子弟に本県を知ってもらうとともに、本県と移住先国との緊密化に貢献する有為な人材を育成することを目的として、本県移住者の子弟に県費で県内大学へ留学してもらう県費留学生受入事業を実施しております。

今年度は県費留学生として、３名の方が４月初旬に来鹿されました。

県費留学生３名は、来年２月までの 11 ヶ月間鹿児島に滞在し、鹿児島大学で各自の専門分野を学びます。

この事業は、昭和 45 年から始まり、今年で 55 年目を迎えます。今年は、ブラジルから２名、ペルーから１名をお迎えしました。４月初旬にブラジルやペルーから約 30 時間の長時間のフライトを経て鹿児島県へ到着された３名は、早速、留学先の鹿児島大学の授業へ出席し、約 11 ヶ月間の鹿児島での生活をスタートさせました。

留学生３名に今回の留学への意気込みを聞きました。

・児玉　ブルノ　啓吾氏（ブラジル）

これから 11 か月間、鹿児島大学で地域社会学を学びます。
祖父が生まれ育った鹿児島に、祖父がブラジルへ移住してから 45 年を経て、私が来る機会をいただけたことを大変光栄に思っています。
祖父はすでに他界しましたが、祖父が語ってくれた鹿児島の思い出を、これから直接体験できることに、心から感謝しています。

また、これは日本語の上達や新しいことを学ぶ大切な機会でもあると考えています。
鹿児島の祭りや伝統についてできるだけ多くのことを学び、ブラジルに戻った際にはその知識をみんなに伝えたいと思っています。
さらに、日本で行事がどのように行われているのかを知り、それを参考にしてブラジルでも同じように祝えるようにしたいと考えています。
最後に、このような貴重な機会をいただいたことに、心より感謝申し上げます。家族や友人はもちろん、鹿児島県の皆様、そして鹿児島県人会の皆様にも深くお礼を申し上げます。

・福川　グスタボ氏（ブラジル）

はじめまして！福川（ふくがわ）グスタボと申します。
昨年、23 歳でブラジルのサンパウロ連邦大学の経営学を卒業しました。令和７年度鹿児島県県費留学生です。どうぞよろしくお願いします。
私は、日系ブラジル人であり、高校生の頃からずっと祖父母の故郷を知りたいと思っており、長年日本に行く事が夢でした。しかし、祖父母の故郷である日本に行きたいと思っても、どうやってその夢を叶えれば良いのかわかりませんでした。そんな時に参加した講習会のおかげで曾祖父の出身地である鹿児島の県人会のメンバーになり、その後県費留学プログラムに合格することができ、ずっと持っていた夢がやっと現実になると感じました。
なお、講習会というのは、毎年 Asebex という日本で留学した日系人の団体によるものであり、日本に行く留学生や将来的に日本での留学を目指している方々向けの日本の学生生活や日本文化について情報をたくさん得ることができた講習会です。その中で県人会についても知ることができ、曾祖父の出身が鹿児島ということもあって鹿児島県人会に参加しようとおもいました。
県人会の青年部のメンバーになった 2024 年には、いろんな県人会のイベントにボランティアとして参加してきました。特に記憶に残ったのは、九州ブロックの運動会と日本祭りでした。
私にとって県費留学生になることは大変光栄なことでした。祖父母の故郷に行き、たくさんの素晴らしい方々との出会い、その地域ならではの文化や伝統を学び、さらに日本に残った親戚に会うこともできる。このような経験は人生に１度しかない素晴らしい経験になると思っています。
最後に、ブラジルに帰った後は、今回の留学で学んだ事を県人会や日系コミュニティの中で広めたり、次回以降の後輩達に自分の経験を伝えていきたいと思っています。

・川畑　ポンセ　ケビン　ミゲル氏（ペルー）

日本に来る機会を提案されたとき、何か特別な事が始める予感がしました。
日本は私の家族にとって歴史的に繋がりのある場所であり、私はずっと、先祖の土地を知りたいという夢を抱いて
いました。

祖父は２度日本を訪問する機会に恵まれたようですが、祖母は若い頃に移住し、その後日本には一度も戻らず、故郷の記憶はあまり残っていないようでした。それでも祖母は機会があれば帰国したいという願いを持ち続け、日本にいる兄妹と手紙等でやりとりを続けていたのですが、その願いが実現することはありませんでした。

父も以前日本を訪問しておりましたが、鹿児島を訪れることはしませんでした。父はいつも私に「行きたかったな」と漏らしていました。

今日、実際に自分がここ（日本）にいて、この土地を歩くことは私にとって単なる旅行とは違い、特別な意味があります。何世代も前から続く夢の実現であり、特に私の父がかつて抱いた夢を、私が実現していることに誇りを感じます。

私自身も以前より日本の文化に魅了されてきました。まだまだ数多く学ぶ事があると思っておりますが、これからは実際に自分で文化に触れ、浸り、経験から多くの事を学んでいきたいと思っております。そしてこの経験を公私ともに生かしていき、有益なものにしていきたいと思っています。

私の最大の願いは、祖母の姉妹に会い、父が夢見た場所を訪問することです。この留学はきっと一生忘れられない思い出になると思っています。

そして帰国した際には、今回の留学で得る多くの経験を、愛する人達と共有していきたいと思っています。

３人にとっては、初めて鹿児島での生活ですが、この 11 ヶ月は、勉強だけでなく、祖父母の出身地の訪問や、親戚との交流などを通じて、鹿児島での生活を有意義なものにするとともに、大きく成長することのできる期間にしてほしいです。

▲鹿児島に到着された時の皆さん

知事の動き

●ＨＩＳ　ＪＡＰＡＮ 山野邉プレジデントが県庁を訪問されました（５月８日）●

ＨＩＳ　ＪＡＰＡＮの山野邉プレジデントが県庁を訪問されました。

本県は、(株)エイチ・アイ・エスとの間でインバウンド観光等の促進を目的とした連携協定を締結しています。さらにベトナム航空も交えた三者間で、ベトナムとの定期便就航に向けた連携協定を締結しており、これまで計３回

のハノイ-鹿児島チャーター便を運航し、相互誘客を促進してまいりました。

これらの連携協定に基づき、両者との協力関係をさらに進め、今後もベトナムをはじめ多くのインバウンド観光客に本県を訪れていただけるよう、効果的なプロモーションに努めるとともに、ベトナムとの定期便就航に向けて尽力してまいります。

HISの皆様と記念撮影 ▶

◀ 当日の歓談の様子

●鹿児島県・江蘇省交流協力会議が開催されました（5月19日）●

中国江蘇省の方偉（ほうい）副省長をはじめとする訪問団が来県され、鹿児島県・江蘇省交流協力会議を開催しました。

両県省の交流は1985年から始まり、今年で40年の節目を迎えます。これを契機に交流の更なる強化を図るため、経済、環境、福祉の各分野における両県省の取組状況を説明し、意見交換を行いました。

塩田知事は、高齢化、医療、環境等の問題は本県だけではなく世界共通の課題であり、両県省の先進的な技術を活用して問題解決に努めたい、また、両県省の連携強化により、今後も友好関係の発展に取り組んでいきたいとお伝えしました。

方偉副省長からは、鹿児島の特産品である焼酎や和牛は非常に素晴らしいことや、太陽光・風力発電等の再生可能エネルギー分野での交流、青少年やスポーツを通しての人的交流などを行っていきたいとの話がありました。

江蘇省との長年に渡る友好交流を更に強化し、今後も両県省の交流を深めてまいります。

▲方偉副省長と記念品交換

▲江蘇省の皆様との記念撮影

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◆
鹿児島県庁ホームページ　http://www.pref.kagoshima.jp/
◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◆

□■――――――――――――――――――――――――――――――――■□

編集後記（鹿児島県観光・文化スポーツ部国際交流課）

雨の降る日はカエルの声が賑やかな季節になりました☔
日本語では「ケロケロ」と鳴き声が表されるカエルですが、他の言語では何と表現されるかご存じですか？

英語では「ribbit ribbit」、韓国語では「개굴개굴 (ケグルケグル)」、中国語では「呱呱(グァグァ)」と表されるそうです。
同じものを見たり聞いたりしてもそれぞれの国や地域で表現の仕方が異なるのは、言葉の持つ面白さのひとつだと思います。
これからも、様々な文化の魅力を皆さんにお伝えできるよう努めていきたいと思います。
次回もお楽しみに🐸

□■――――――――――――――――――――――――――――――――■□

「かごしま南の風便り掲示板」では、次の鹿児島に関する話題を募集・掲載いたします！

☆鹿児島フォトギャラリー
　鹿児島らしさを感じる写真や海外で見つけた鹿児島の写真を募集いたします。写真の簡単な説明を添えてお送りください（例：克灰袋の山）。

その他、読者の皆様に発信したい情報もお待ちしております。

▲▽▲▽　記事提供・お問い合わせ先　▲▽▲▽
日本国　鹿児島県　観光・文化スポーツ部　国際交流課
〒890-8577 鹿児島市鴨池新町 10-1
電話番号:+81-99-286-2306
FAX 番号:+81-99-286-5522
↓電子メールアドレス
英　語：cir1@pref.kagoshima.lg.jp
中国語：cir2@pref.kagoshima.lg.jp
韓国語：cir3@pref.kagoshima.lg.jp
日本語：minami@pref.kagoshima.lg.jp
本記事の著作権は鹿児島県に属します。無断での再配信、転載及び掲示板等への掲載は禁止します。